



「自然や環境」を考え、行動するヒントや「尼崎21世紀の森」の楽しい「こと・もの」がこの「エイ・エイ」の中に入っています。

CONTENTS

- ◆尼崎21世紀の森の現場:
「尼崎の森 中央緑地」の『山親爺(やまおやじ)』
100年先の森は、子どもたちへの「素敵なおプレゼント!」
- ◆情報交流コーナー:あま・あま・ポン
緊急「おめでとう」のインタビュー
・尼崎南部の緑化を考えて、国土交通大臣賞を受賞。
「小さなスペースでも、緑を増やす“すき間緑化”」
・兵庫県環境功労賞を受賞。
・速報/環境情報科学センター賞 特別賞を受賞。
「尼崎21世紀の森の仲間たち」
- ◆尼崎21世紀の森LIFE:
尼崎の“宝”300年もの伝統を誇る「地車」
「はばタンアリーナ50」でフィギュアスケート
What's「尼崎21世紀の森づくり?」



「尼崎21世紀の森づくり」を応援し、環境や自然に親しみ、創造的なライフスタイルを考えるフリーマガジン 2013年8月1日発行 NPO 尼崎21世紀の森 <http://www.amaz21mori.net/>

「あましん」環境活動 NEWS

「尼崎21世紀の森づくり:苗木の里親」の活動状況をお知らせします!

◆「苗木の里親」制度のしくみ

～お家で育てられた苗がさらに大きく育っていきます～
ご家庭などで苗木(コナラ、アラカシ、エノキなど)を約2年間、育ていただき、その育った苗(若木)を「尼崎の森 中央緑地」に順次、里親のみなさんに植樹をしていただきます。そして、みんなに愛される森になるよう育てていきます。

◆尼崎市内店舗25店舗に「苗木の里親コーナー」の設置

～植樹用の苗木を配布～

あましんでは「苗木の里親コーナー」を設置し、苗木づくりへの参加を呼びかけて、苗木の里親案内人の養成を受けた職員から、新たに里親となっていただけるお客さまに苗木をお渡ししています。

◆「尼崎21世紀の森づくり」苗木の里親制度 定額積立定期預金「どんぐりの木」

～平成23年6月1日から全5期にわたり発売～

平成23年6月1日、創業90周年記念事業一環として、どんぐりの苗木の里親を募る環境保全商品「定額積立定期預金 どんぐりの木」を発売しました。

【お取扱期間】

- 平成23年6月1日～平成27年10月30日
- ・第1回:平成23年6月1日～平成23年10月31日
- ・第2回:平成24年6月1日～平成24年10月31日
- ・第3回:平成25年6月3日～平成25年10月31日
- ・第4回:平成26年6月2日～平成26年10月31日
- ・第5回:平成27年6月1日～平成27年10月30日

◆「尼崎21世紀の森 あましん植樹祭」を開催。

あましんでは、「尼崎21世紀の森づくり」の一環として、「尼崎の森 中央緑地」において『あましん植樹祭』を平成23年より、実施しています。

・今年、平成25年10月5日に第1回の定額積立定期預金「どんぐりの木」にご加入いただいた里親のみなさんと一般公募によりお集まりいただきみなさんによる植樹祭を実施します。

・2年間「どんぐりの木」の里親として、手塩にかけて育てていただきありがとうございました。



◆役職員による除草活動:平成25年7月6日(土)

～「尼崎21世紀の森づくり」のボランティア活動～
平成23年、24年と植樹した苗が健やかに育つようにと、役職員約450名によって除草活動を行いました。



除草活動(平成25年7月6日)



除草活動参加者(平成25年7月6日)

「尼崎21世紀の森づくり」を応援しています。

尼崎信用金庫

AMASHIN

<http://www.amashin.co.jp>

あましん 検索



根株を運搬しているところ

中央緑地の山親爺によく似た木を北摂の里山で見ることが出来ます。「台場クヌギ」と呼ばれるクヌギです。薪や炭として利用するために、地上から数m上を残して切り倒して、そこか

循環的利用の知恵を伝える「山親爺」

新たに平成25年3月、新名神高速道路の予定地から、同じように根株移植を行いました。現場に行くたびに、「無事芽が吹いてくれますように」と祈る思いで観察しています。先日、そのうち4本から小さな小さな芽が吹いていることが確認できました。愛おしい小さな芽です。中央緑地の新たな環境になじんで成長していくてほしいです。

森のお引っ越し第二弾

7年前から苗木を植え始めた
尼崎の森 中央緑地。
まだまだ、若い林ですが、その中で、
ちよつと貫禄のある不思議な
木を見つけました。
私たちは、その木を中央緑地の
「山親爺(やまおやじ)」と
呼ぶことにしました。



山親爺 やまおやじ

7年前に苗木を植えるところから始まった尼崎の中央緑地。苗木は5mを超えてきましたが、まだまだ若い林です。その中でも、ちよつと貫禄のあるこの木。親しみを込めて中央緑地の「山親爺(やまおやじ)」と呼んでいます。この「山親爺」は、7年前に県道建石線の拡幅工事にあたり伐採されてしまった木を移植してきたものです。通常このような大木をそのまま移植するのはとても難しく、また掘り取りや運

搬に莫大な費用がかかるため、保護樹木のような貴重な樹木でないことと移植しないことが多いのが実情です。そこで、いろいろ検討し「根株移植」という工法を使いました。移植する木の地上部を切り倒し、根つただけの状態にして移植する工法です。元の樹形のままという訳にはいきませんが、掘り取りや運搬もローコストで実施でき、かつその後の活着もしやすいというメリットがあります。しばらくすると、切り株から芽が吹いてきて、幹が再生してきます。

尼崎の森中央緑地の



そして、7年の月日が経過し、このような風格のある姿になっています。当時、約60本の木を移植したのですが、ほぼ6割の木が無事活着しました。



根株から出た小さな芽

らまた再生した幹を成長したらまた伐つて使うので、下の方が台のような形になっています。これは、一度伐採したらそれで終わりではなく、木を長い年月にわたって持続的に利用するための知恵から生まれた形と言えます。ここはまた、クワガタなどの多くの生き物を育む住処にもなります。

世代をつなぐ森

6年前、長男が1歳になった時に、中央緑地にクヌギの苗木を植樹させ

ていただきました。その当時、またはいはいの赤ちゃんだったのに、今やランドセルを担いで小学校に通う小学2年生です。そのとき息子が植えた30cmほどのクヌギの苗木は、あつという間に子供の身長を追い抜き、もう5m近くまで成長しています。長男が大人になったときには、今の若い林はきつと森になっていることでしょう。

長男が大人になって結婚し、自分の子どもとこの森に来て、「これはパパの植えた木だよ」と説明できるというなあと思っています。私は100年先の森の姿を見ることができないけれど、自分の子供か、またその子供が引き継いで見守ってくれる森。子供たちに残せる「素敵なプレゼント」だと感じます。



2007.3 植木の植樹：守 隆太郎(11カ月)くん



2012.8 植樹から6年後

守 宏美(もり ひろみ)さん

・兵庫県 阪神南県民局 尼崎港管理事務所/尼崎21世紀プロジェクト推進室 技術職(造園)
・趣味：野遊び(山・川・海・畑) フットサル

・中央緑地の森づくりに関わって11年。森の成長とともに増えてくる生き物の営みに感動する日々です。

あなたも森づくりに参加しませんか？

- ◆森の苗木づくりや間伐などの手入れ、森の生き物観察などを行っています。
- ◆生き物大好きな子ども達も、森づくりを体験してみたい人も、森づくりを極めたい人、どなたでも参加できます。お待ちしております。

◎毎月 第1日曜日・第3金曜日：9時45分～12時
参加費無料：事前申込み不要

◎お問合せ：兵庫県 阪神南県民局/尼崎港管理事務所
TEL:06-6412-1361
E-mail:ama21@pref.hyogo.lg.jp



すき間緑化のシンボル

緊急「おめでとう！」
 INTERVIEW

◆この度は国土交通大臣賞を受賞されたとのこと、おめでとうございます！ありがとうございます。嬉しいと言ふよりも、ホッとしたと言ふか、これで助かった、…という感覚ですね。

◆助かったとは？
 もう10年も続けていますが、「すき間緑化」は本当にお手本が無い活動で、まったくの手探りの中で10年間もがいてきました。こういった賞をいただけることは、ようやくスポットライトを浴びたような感覚で、ようやく自分たちの活動が間違っていないかっただんだなあと思え、ホッとしましたような感じですね。

尼崎南部の緑化を考へて
 国土交通大臣賞を受賞。
 「小さなスペースでも、
 緑を増やす“すき間緑化”」

黒田 光枝(くろだ みつえ)さん
 南部グリーンワークス:代表
 神戸市出身。山は六甲、海は須磨、川は住吉川で育つ。阪神淡路大震災で尼崎に引っ越しして来て、山、海、川のよさに改めて気づき、「尼崎とくに南部に緑豊かな環境!」と活動中。
 好きな人: ポールスミザー
 好きな植物: コガクウツギ



あり、多くの人が関わってくれば、多くの人が尼崎の歴史と文化を考えてくれるのではないのでしょうか。
 活動によって風景は少しずつしか変化しないかもしれませんが、それでも少しずつの変化が関わった

そうすると、これまで緑化に無関心だった人たちが、この活動を通じて環境問題に興味を持ち出してくれるようになってきました。自分の会社にも緑を増やせないだろうか、という問い合わせも増えてきているんです。

◆「すき間緑化」が人々の心のすき間にも潤いを増やした、という事でしょうか。
 そうであれば嬉しいですね。ひよっとするとそういった部分も評価されたのかもしれないですね。

◆最後に、黒田さんのこれからの夢を教えてください。
 尼崎南部の緑化を考へることは、尼崎の原風景に思いを寄せることでも



◆多くの方々を巻き込んで、地道な活動に花を咲かせた訳ですね。
 尼崎21世紀の森づくりの難しさは、その対象エリアの多くが民間の工場地帯であることです。どうやって緑を増やす仲間を増やしていくかが課題でした。そんな悩みを抱えている時に、尼崎鉄工団地の西村理事長が声をかけてくださり、「すき間緑化」の取り組みが始まったのです。この活動が国交大臣表彰を受けたのも、西村さんのおかげと思っています。

はじめてみるとこの取り組みはほんの小さなスペースでも、やり方によっては緑を増やすことが可能なんだ、ということが分かりました。従来の考え方は緑化スペースが無い、と思われていたところに、新たな緑化の可能性を見出してきたと自負しています。

そんな地道な取り組みが、こうやって評価されたのは本当にうれしいですし、これまで関わってくれた皆さんのおかげだと感謝しています。

“すき間緑化”って、
 知ってます?



「家庭・会社・学校」など、どこでも、誰でも、楽しく・手軽に、「私から出来る」地球温暖化防止になり、「みどり」あふれる尼崎を育てていきます。



人々の心の変化を呼び、そういった人が増えていってくれば、自然環境を取り戻す大きな市民運動につながっていくのではないかと期待しています。この活動が都市に単に緑を増やすことではなく、人々と自然の関係性を修復する運動につながっていくとすれば素敵ですね。

速報
 尼崎21世紀の森づくり協議会が、第13回
 環境情報科学センター賞特別賞を受賞。

協議会がこれまで推進してきた、尼崎臨海地域での市民・企業・団体・学識者・行政の参画と協働による森づくり・まちづくりの活動が評価され、特別賞の受賞となりました。表彰式は、平成25年5月23日(木)に東京で行われ、表彰状の授与に引き続き、10年間協議会を牽引してきた盛岡会長が受賞記念講演をされました。



尼崎鉄工団地協同組合の西村理事長が
 兵庫県環境功労賞を受賞!



尼崎南部グリーンワークスに「すき間緑化」の活動フィールドを与えてくれた、尼崎鉄工団地協同組合の西村理事長が平成25年度兵庫県功労者表彰(環境功労)を受賞されました。

Aa第3号でも特集させていたいただきましたが、工業地帯に養蜂場を作った「尼みつ」の活動などが評価されたようです。おめでとうございます！

表彰式では周りの受賞者から「西村さんが環境部門?」…と不思議がられたそうです。



◆「すき間緑化」についてももう少し具体的に教えてください。
 民間の工場に対し、生産エリアを潰してまで緑地を増やしてくれ、とは言えません。そこでまとまった空地が無くても出来ることはないだろうか、…と考へ、出来たのが「すき間緑化」です。建物の間や壁面、ちよつとした空地があればいいのです。ちよつとした「すき間」にちよつとした緑や花を増やすことで、これまで殺風景だった工場にちよつとした潤いを与えることが出来ます。そんな活動を10年続けてみると、増えたのは緑だけじゃなくて、トンボやツバメなどの生物も増えて来ました。生物多様性って言うんですか、環境改善にも役立つって感じています。最近では養蜂も始まって、工都尼崎産のハチミツがとれるようになり、随分話題にもなってきました。

「尼崎21世紀の森」の
 仲間たち



藤原 悟(ふじわら さとる)
 甲南大学 経営学部4年生

◎尼崎21世紀の森に関わるきっかけは?
 A まず、まちづくりに興味があったので、尼崎で行われていた、まちづくりコーディネーター養成講座に参加して、学びました。徐々に座学だけでなく実際に活動に参加したいと思ひ、まず「森づくり」に参加したことです。次に、森や海などの自然が好きで、自然保護活動もよいと思ったのですが、自分たちで森を作るといふ斬新な活動に惹かれました。

◎印象的だったことは?
 A 参加してみて、尼崎の印象が変わりました! 尼崎に行ったこともないのに「尼は公害の町治安が悪い」というウワサを鵜呑みにしていました。しかし、森づくりを通して出会った方々は、本当に親切で面白い方ばかりでした。それに、ボランティアの参加人数と幅広い年齢層にはビックリ。尼崎21世紀の森づくりは、植樹会だけでも、小学生から高齢者まで50名ほどが参加されていました。これ以外にも森づくりに関連されている方はもっと大勢います。この尼崎市民の積極性に再びビックリ。

◎これからの目標を教えてください。
 A この森づくりにより多くの人に参加してもらつこと。また、市内・市外の方に森づくりを知ってもらいたいですね。個人的な思いは、尼崎は人情があり、森づくり以外にも環境への取り組みを多くしていて、魅力あふれる街だと思ひます。しかし一方、悪いニュースが続いたこともあって、悪いところばかりを見られている気がします。

ですので、この尼崎21世紀の森づくりを通して「尼崎は、あたたかい町ぞう!」とアピールして誤解をときたいですね。

◎今後、こんなことをしたい? また、どんなことを尼崎21世紀の森に期待しますか?
 A 湾岸地帯だけでなく、「すき間緑化」などで、尼崎市全体を緑あふれる街にしたいです。やっぱり、将来的にはこの森を見て人が安らげるような森を作りたいです。そして、神戸なら「六甲山」、西宮なら「甲子園」のような市の代表地が尼崎には、不足しているような気がするので、尼崎といえば「湾岸の森」になることを期待しています。完成したら尼崎市の「ふるさ」に載せてほしいですね(笑)

◎藤原さん、ありがとうございます。
 最後に一言お願いします。
 A 湾岸地帯に森があるのは珍しく、完成したら絶対に素敵な場所になり、観光名所になると思ひます! それを自分たちで作れることって滅多にない機会だと思ひ、凄いいことだと思ひます。ぜひ、皆さん一緒に尼崎21世紀の森づくりを楽しみましょう!



尼崎臨海部にかつての自然環境=美しさを取り戻したい。
日本の発展を支えてきた誇りを取り戻したい。
かつてこの地に存在した人間の活気を取り戻したい。

そんな願いを込めて、平成14年3月に
『尼崎21世紀の森構想』は、策定されました。それが尼崎市全体に
美しさと誇りと活気を取り戻すきっかけになれば、という希望を持って。

江戸時代



明治の初め



明治から昭和



この尼崎臨海地域が関西の重化学工業の中心集積地として、わが国の産業や経済の高度成長を支える役割を担っていた事をご存知ですか?

昭和40年代



この尼崎市が国道43号・阪神高速神戸線とともに公害問題が深刻化し、「公害のまち」という不名誉な称号を与えられた事をご存知ですか?

近年



巨大工場が建設され一時的に臨海部での産業の活性化に期待が高まるも、世界経済の波の中で再び冷えてきている事をご存知ですか?

これから『尼崎21世紀の森構想』

かつての自然環境=美しさ
日本の発展を支えてきた誇り
人間の活気
を取り戻したい。



環境改善を利用した先進的な「まちづくり」それが『この尼崎21世紀の森構想』の本質です。ナカナカ素敵な計画だと思いませんか? 100年間のこの計画、進めて行けるのは、この尼崎が大好きな一人ひとりの市民、企業の皆さんなのです。

編集後記

生まれ育ちは兵庫県の内陸部。森や川が身近にある環境で育ちました。山登りをしたり、魚を追いかけ回したり、どこにでもいる子どもだったのですが、そんな子どもが大人になり、ひょんなことから尼崎市内で働くことになりました。その尼崎で「森」という言葉を耳にした瞬間、照りつける太陽、木々のざわめき、土のニオイなど、何とも懐かしい情景がよみがえってきました。

尼崎の臨海部に森をつくる、それも100年という時間をかけて、それが尼崎のシンボルとなり、そこに遊ぶ子どもたちの記憶に長く残るようなものになれば...

こんな風に遠い未来のことを思い描きながら今は「コソコソ」と、この「Aa」を通じて皆さんに役立つ情報を伝えることができ、と思っています。(山口東彦)

一緒に尼崎21世紀の森づくりをしませんか! 編集スタッフを募集しています。

「環境とライフスタイル」を考えるフリーマガジン

エイ・エイ: 2013年5号(8月1日発行)
NPO 尼崎21世紀の森 Aa 編集部
ホームページ http://ama21mori.net/
〒660-0815 尼崎市杭瀬北新町3-2-2 大信ビル3F
TEL 090-8233-4079

Chief Editor 岸本 幸三
Editor/Writers 池田 和也 田中 弘之 森上 恒
薄井 洋一 中川 貴美子 森本 和昌
小平 幸生 春田 孝文 藤原 悟
作田 祥介 守 宏美 山口 東彦
Designers 児玉 泰江 杉本 さやか 竹岡 寛文
鳥山 大樹 ヒロコ・I グレース

Print ウニマガ印刷(株)

山車登場



地車(だんじり)を尼崎の誇りに
尼崎には約三百年の伝統を誇る「地車(だんじり)」が存在し、夏祭りには欠かせない夏の風物詩になっていることを、皆さんご存知でしょうか?

毎年八月一日、二日に行われる「貴布禰神社夏季大祭」。初日はかつて「祓え太鼓」として行列道筋の祓いを担当した辰己町を先頭にパレードが行われ、この太鼓が神社境内にて「暴れ太鼓」となり前後左右に激しく倒される姿は圧巻です。また各町から8基の地車が出され、翌日は2台のだんじりが正面からぶつかり合う「山合わせ」が行われます。だんじり祭りでもぶつかり合うのは全国でも尼崎だけで、激しい「喧嘩祭り」として有名です。

地車を持つ各町により「貴布禰太鼓地車保存会」が組織されています。現在の役員8名は、家では優しいパパですが、いざ祭りになると戦闘モードに変身する「だんじりバカ」ばかりです。「だんじりバカ」でない約三百年の伝統を引き継ぎ、約八百人の会員の舵取りはできないのです。勿論、みんな仕事をしています。仕事を終えてから打合せをし、自宅に帰っても書類作成や企画・日程調整など、だんじりのことが頭から離れることはなく、この運営は本当に大変です! 家族の理解なしでは到底出来ません。

こうした「支え」は家族だけではありません。大祭の運営では、地域の皆さんや、企業や商店、学校関係者・生徒の皆さんの「伝統文化を守ろう」地域を活性化しよう!等の熱い思いが肌で感じられます。そういった方々のサポートにより、今も歴史を刻み続けられることを誇りに思っています。

年々、伝統文化を維持継承していくのが厳しくなっています。どうか一人でも多くの方にご理解とご支援を頂き、この祭りが尼崎全体の「宝」や「誇り」となるよう、これからも魅力溢れるだんじりを目指して頑張ります。

「百聞は一見にしかず」です。八月一日、二日の大祭にはぜひ足を運びいただき、その勇壮さをお楽しみください。

8月1日、2日の夏祭りにはぜひ!



太河原 浩次さん 貴布禰太鼓地車保存会 事務局長

はばたけ世界へ Make the world your stage.



はばタンアリーナ50



フィギュアスケートのインストラクター 淀粧也香(右)さん 竹久 友梨(左)さん

尼崎21世紀の森中央緑地公園内にある「尼崎スポーツの森」はばタンアリーナ50のアイススケートリンクは、オープンして7年が経ちました。夏のシーズンはプールとして、冬は、なんとプールの床が上下し、水深を0〜3mにできる可動床システムを採用したスケートリンクになります。水深を0mにしてプールサイドとプール床の高さをフラットにすると国際規則にあった長さ60m、幅30mの

公認アイススケートリンクが生まれます。周囲の客席は、2000席以上で、世界的大会でも使用可能で、前シーズンの利用者数は、76000人を超えています。

また、アイススケート教室(アイスホッケーを含む)は12コース、3歳〜50歳と幅広い世代の生徒さんがいます。そして、特にフィギュアスケートのスクールは人気があります。インストラクターの淀粧也香(よどさやか)さんと竹久友梨(たけひさゆり)さんは、6歳からフィギュアスケートをはじめ、16年間の競技生活を経て、『尼崎スポーツの森スケートリンククラブ』で、コーチをされ、春休み短期教室(4日間)でも教えられています。

コーチとして3年目となり、「生徒さんのジャンプやスピンのなどで成長を感じることが、何よりも楽しみ」と目を細めて語っておられました。

夢としては、「尼崎スポーツの森スケートリンククラブ」から世界的な選手を出して、『尼崎スポーツの森』をもっと有名にしたいとのことでした。

